七□□
正安元年己亥九月廿八日 平純基
又次郎平□□

いすみのこほりいしかみのかう北田
畠さんやけんさんらの
在家のところはさんえんいらにつき
てにちやくし二らしにゆつりわたし候
ゆつりをはぬすいそんとうちや
めんとらにいてまて二らしにゆ
さうるしきていつれりてまいらせ
てらそかしあるへしそのうれ
きめしとりしの状如件
弘安七年甲申二月二日 平(花押)

いすみのこほりたかゆきのかう北田
の内無量寺の名の田畠□□□

ほすきのこおりたゝゆきかゐつかう
の内原田の名の田畠山野并ニ家ての地
田地壹町
但此ハ一段の田ニおいてハいまたけいや
のかうあり
右件の所領ハ忠切かせんしよさうてんの
本領也、しかるあいたハ参二貫文ニおいてハ
あきなひしのこしたれいつをかきつそへ申
也、さてすなハちかくの所々をしすかに
るし、和与参二貫文ニうりわたしまいらせ候
ところ也、ゆめゆめわつらいあるへからす、たとへ
いかなる人のわつらいをいたしさうらへとも
ふのうちにしてたのをもちいるへく候、わさハり
よそはこまのてをかいえをしすへく候
のちのためにかくのごとし、仍状件
応安七年甲寅二月二日　平忠利